

# しょうわてんのう こくみん あゆ しょうがい 昭和天皇 — 国民とともに歩まれた生涯

だいひょうしつぷつしゃ  
代表執筆者

ふじおか のぶかつ  
藤岡 信勝



りっけんくんしゅてきなたちば つらぬ こくみん あんない いの つつ むし けんしん しょうがい  
立憲君主制の立場を貫きつづき、国民の安寧を祈り続けた、無私と献身の生涯とは。

## せいじつ ひどがら まじめで誠実なお人柄



しょうわてんのう せいき はじ とし めいじ ねん がつ にち  
昭和天皇は20世紀が始まる年、1901（明治34）年の4月29日、  
こうたいしじだい たいしょうてんのう だいいっし たんじょう ぎよめい  
皇太子時代の太正天皇の第一子として誕生しました。御名は  
みちのみやひろひと ようしょう きわ せいじつ ひどがら  
迪宮裕仁。幼少のころから、極めてまじめで誠実なお人柄でした。  
そくい のち かごしま くんかん ききょう てんのう  
即位ののち、鹿児島から軍艦にのって帰京される時、天皇が  
くら うみ む きょしゅ れい  
暗くなった海に向かってひとり一人挙手の礼をされているのを  
つ もの み ふし ぎ おも うみ ほう み  
付きの者が見つめて不思議に思いました。そこで海の方を見ると、  
とお くら さつまはんどう かいがん みおく じゅうみん た  
遠く暗い薩摩半島の海岸に、お見送りをするために住民が焚いた  
おち び れつ み てんのう む どうれい  
と思われるかがり火の列が見えました。天皇はそれに向けて答礼  
をされていたのです。

## りっけんくんしゅてき たちば 立憲君主制の立場

しょうわてんのう たいしじょう ねん ほうもん こくおう せいした かた あ  
昭和天皇は1921（大正10）年にヨーロッパを訪問し、イギリス国王ジョージ5世と親しく語り合  
いました。そのとき、イギリスの政体「立憲君主制」を学んだといひます。「君臨すれども統治せず」  
という君主のありかたは、ぶ け せいけん を とり ちやうてい こっか あんない いの にほん せいじけいたい  
武家が政権をとり、朝廷は国家の安寧を祈るという日本の政治形態にも  
似ていました。天皇は「もし、自分が良いと思うことは裁可し、嫌なことは裁可しないといひ  
ならば、これは専制君主と変わらな  
い」と述べています。

こっか きき おちい せいふ  
しかし、国家が危機に陥り、政府  
きのう きのう くんしゅ みずか  
が機能しないときには、君主が自ら  
けつだん ばあい  
決断しなければならない場合があります。  
しょうわてんのう く に めいうん にかか  
ます。昭和天皇も、国の命運にかか  
じゅうよう ぼめん みずか けつだん  
わる重要な場面で、自ら決断された  
ことがあります。

しょうわ ねん に しろくじけん  
1936（昭和11）年の二・二六事件



とき てんのう しょうこう ぶりょくこうい たい たいど はんらんぐん ちんあつ めい  
の時、天皇は、将校たちの武力行為に対しきびしい態度でのぞみ、反乱軍とみなして鎮圧を命じ  
ました。

しょうわ ねん がつ しゅうせん しょうわてんのう けつだん せんげん じゅたく せんそう  
945（昭和20）年8月の終戦も昭和天皇の決断でした。「ポツダム宣言」を受諾して戦争をやめ  
るか、ほとんど本土で決戦をすべきか、政府内の意見が二つに分かれ、どちらとも決まることがで  
きなくなったとき、すすきかたろうしゅう 天のう はんだん ゆだ しょうわてんのう  
鈴木貴太郎首相は、天皇にその判断を委ねたのです。昭和天皇は、「わたし  
こくみん まも しゅうせん せいだん くだ  
は国民を守りたい」と、終戦の聖断を下しました。

### かんどう マッカーサーを感動させる

しゅうせん とし がつ てんのう せんりょうぐん そうしれいかん げんすい たず  
終戦の年の9月、天皇はみづから、占領軍（GHQ）総司令官マッカーサー元帥のもとを訪ね  
ました。げんすい てんのう いのちこ べんかい き おも れきしじょう くに しどうしゃ  
元帥は、天皇が命乞いや弁解に来たのでは、と思いました。歴史上、どこの国の指導者  
せんそう ま ざいさん も ぼうめい じぶん かぞく あんせん もと ふつう  
も、戦争に負けると財産を持って亡命するか、自分と家族の安全を求めてくるのが普通だったか  
らです。

てんのう ぐち で ことば わたし こくみん せんそうすいこう あ せいじ ぐんじりょうめん おこな  
しかし、天皇の口から出た言葉は、「私は、国民が戦争遂行に当たって政治、軍事両面で行っ  
たすべての決定と行動に全責任を持つ者として、私自身をあなたの代表する諸国の採決にゆた  
ねるためお訪ねした」というものでした。げんすい し とこな せきにん あき てんのう き  
元帥は、「死をも伴うほどの責任、明らかに天皇に帰  
すべきではない責任までも引き受けようとする、この勇氣に満ちた態度に、骨の髄までゆり動か  
された」と『回想録』に記しています。

こうりやく  
(( 後略 ))

### ふじおかのふかつ 藤岡信勝 プロフィール

しょうわ ねん ほっかいどうま ほっかいどうだいがくきょういくがくぶぞつ ほっかいどうきょういくだいがくじょきょうじゅ とうきょうだいがくきょういく  
昭和18（1943）年、北海道生れ。北海道大学教育学部卒。北海道教育大学助教授、東京大学教育  
がくぶきょうじゅ たくしゅくだいがくきょうじゅ じゅうしゅうじしかんけんきゅうかい だいいょう あたら れきしきょうかしょ かい かいちょう  
学部教授、拓殖大学教授を歴任。「自由主義史観研究会」代表、「新しい歴史教科書をつくる会」会長。  
ちよしよ きょうかしょ おし れきし ふそうしゅ おじょく きんげんだいし とくましょてん じぎやくしかん ひょうり  
著書に『教科書が教えない歴史』1～4（扶桑社）、『汚辱の近現代史』（徳間書店）『「自虐史観」の病理』  
ぶんげいしゅんじゅう きょうかしょさいたく しんそう しんしよ  
（文藝春秋）、『教科書採択の真相』（PHP新書）などがある。

かぶしきがいしゃ じゅうしゃ はっこう あたら れきしきょうかしょ  
（株式会社 自由社 発行「新しい歴史教科書」P258 より）